

デンマークの養豚と家畜衛生事情

大野高志（農林水産省畜産局食肉鶏卵課）

Ohno, T. (1994). Current situations of porcine production and health control in Denmark. *Proc. Jpn. Pig Vet. Soc.*, 25: 9.

養豚はデンマークの重要な産業であり、豚肉の輸出額は総輸出額の8.6%、農産物総輸出額の43.0%を占める。特に日本に対する輸出が多く、豚肉とその加工品は対日輸出額の約半分に達する。このようなことから、デンマークは養豚の振興に力を入れており、他国には見られないユニークな仕組みで養豚が行われている。

デンマークの養豚産業の特色は、共同組合の発達と業界内の強力な連携にある。2万7千戸の養豚農家は年間出荷頭数約1,800万頭の生産に携わるだけでなく、関連企業の大半を所有し、またほとんどすべての共同活動の資金面をになっている。すなわち、デンマークでは生産者が所有する協同組合企業が圧倒的な力を持っている。たとえば屠場についていえば、1991年末に行われた屠殺頭数第2位の協同組合企業による同第4位の株式会社の吸収の結果、すべてが協同組合の所有となった。さらに、これらの屠場が大規模な缶詰工場や冷凍工場、その他の企業の大半を所有している。また、これらのすべての関連企業は、デンマーク屠場連合（DS）に加入しており、DSは生産者ならびに各企業に代わり各専門分野における研究・実験活動やコンサルティング、教育、防疫などの諸活動、さらに国内のみならず国外の関係当局や諸機関とのコンタクトにいたるまで、デンマークの豚肉産業を代表して様々な活動を行っている。DSの活動資金は、出荷1頭あたり2.5クローネ（約50円）の会費が充当される。

衛生問題の改善も重要視されており、積極的な活動が行われている。豚コレラ、オーエスキー病、豚伝染性胃腸炎など主要な伝染病は清浄化されている。防疫活動の中心がDSであることは上に述べた。SPF化についても熱心であり、DS傘下のSPF社が中心になって進めている。

演者は在デンマーク日本国大使館に3年間勤務し、その間デンマークの農業、特に畜産について広範な調査を行った。本講演ではデンマークの養豚と衛生事情について紹介した。

（本文は大野高志氏の講演を事務局で要約したものである。尚、大野氏からはデンマークの養豚、衛生、SPF化に関する膨大な資料を寄贈いただいた。興味のある方は事務局までご連絡下さい。）

（第46回日本豚病研究会発表）

住所：〒100 東京都千代田区霞が関1-2-1